

ステータス:	終了	開始日:	2010/01/28
優先度:	通常	期日:	
担当者:		進捗率:	100%
カテゴリ:		予定工数:	0.00時間
対象バージョン:			
説明			
DataPort.idlで定義されているオペレーションget()を実行するとメモリーリークが発生する。 「DataflowType: pull」で接続した場合に、get()が呼ばれる。 examples/tests/DataPortTest.py の動作テストによりメモリーリークを確認した。			

履歴

#1 - 2010/02/22 14:38 - 匿名ユーザー

- ステータス を 新規 から 解決 に変更
- 進捗率 を 0 から 100 に変更

「DataflowType: pull」接続におけるメモリーリークの原因は、
OutPortPullConnector、InPortPullConnector のdisconnect() で、
m_provider、m_buffer、m_consumer などを削除していなかった為である。

```
・ OutPortPullConnector::disconnect()に以下を追加。  
// delete provider  
if (m_provider != 0)    {  
    OutPortProviderFactory& cfactory(OutPortProviderFactory::instance());  
    cfactory.deleteObject(m_provider);  
}  
m_provider = 0;  
  
// delete buffer  
if (m_buffer != 0)  
{  
    CdrBufferFactory& bfactory(CdrBufferFactory::instance());  
    bfactory.deleteObject(m_buffer);  
}  
m_buffer = 0;  
  
・ InPortPullConnector::disconnect()に以下を追加。  
// delete consumer  
if (m_consumer != 0)    {  
    OutPortConsumerFactory& cfactory(OutPortConsumerFactory::instance());  
    cfactory.deleteObject(m_consumer);  
}  
m_consumer = 0;
```

この改修により、継続的なメモリーリークの発生はなくなった。

リビジョン 1891 にて対処。
以上

#2 - 2010/03/03 14:37 - n-ando

- ステータス を 解決 から 終了 に変更